

ワクチンを打つ前に  
知っておきたいこと  
読んでほしいこと



## HPV ワクチンの ほんとうのこと

この表紙画像は原告の女性がデザインしたものです。  
副反応の症状は多様ですがこの女性のように車イス生活になる場合もあります。

国は 2022 年 4 月から、HPV（子宮頸がん）ワクチンの積極的勧奨を再開しようとしています。いまでも**重篤な副反応**に苦しんでいる全国の多くの被害者らを**置き去り**にした再開です。

接種対象年齢の人には、これから地元市町村から「**お知らせ**」や「**予診票**」などが送られてくると思います。

その前に、HPV ワクチンについて“**ほんとうのこと**”を知っていただきたいとの思いで、このリーフレットを作りました。

新型コロナウイルス感染症に対する一連の政府の対応を見てわかる通り、国が行う医療政策が科学的に**正しいとは限りません**。

ほんとうに国民のためになっているかもわからないのです。

皆さんは、子宮頸がんと HPV ワクチンについて適切な**情報**を把握して、**接種についての決断**をしてほしいと切に願っています。

## みんな打ってるから大丈夫？

子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)を接種する  
そのまえに！正しく子宮頸がんについて知って、  
ワクチンには重い副反応被害報告もあること、  
どうしたら子宮頸がんが防げるかを、考えてみよう！



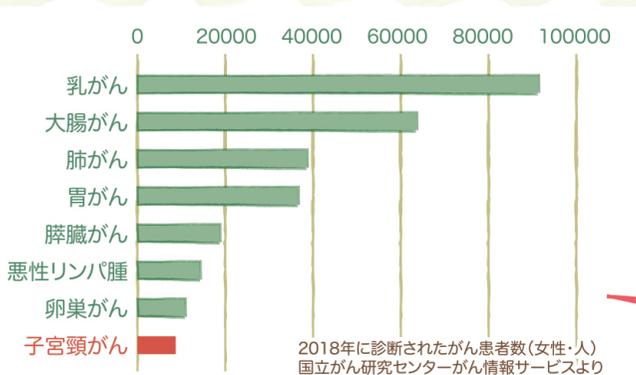
## HPVって、どんなウイルス？

◆ 子宮頸がんの原因とされる HPV(ヒトパピローマウイルス) は、  
性交渉によって感染します。**80%**の女性が一生に一度は感染する  
といわれるありふれたウイルスです。

◆ 感染しても2年以内に**9割**が**自然排出**されます。まれに感染が  
持続し、前がん病変(CIN)になることもあります。そこから正常  
な細胞に戻ることも多く、子宮頸がんに至る割合は感染者の  
わずか**0.15%**とされています。



## 子宮頸がんは、若い人が亡くなるガン？



### 女性に多いその他のがんとの比較

日本人女性に**多いがん**は乳がん、  
大腸がん、肺がんなどです。  
**罹患率・死亡率**ともに、子宮頸がんは  
上位には入っておらず、特に多いとい  
うわけではありません。

いろんながんのうち、**子宮頸がん**に  
かかったり、亡くなってしまふ割合は、  
ともに**7位以下**なんだね。

## 亡くなる方の8割は50才以上

HPV感染から子宮頸がんに至るまでには数年から**十数年**かかります。日本では毎年  
約1万1000人の女性が子宮頸がんになり、約2800人が亡くなりますが、亡くなる  
方の**8割は50歳以上**であり、若い人が多数亡くなっているわけではありません。

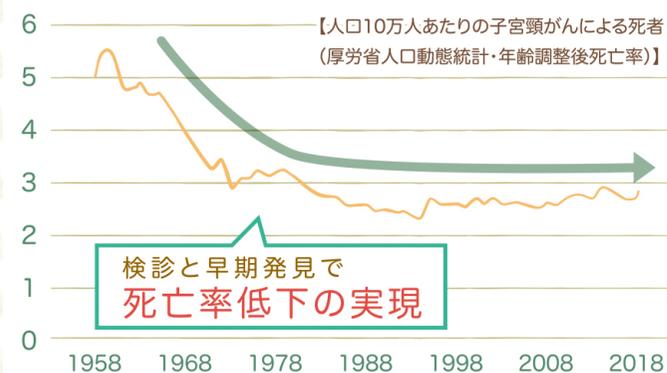


# HPVワクチンってどんなもの？

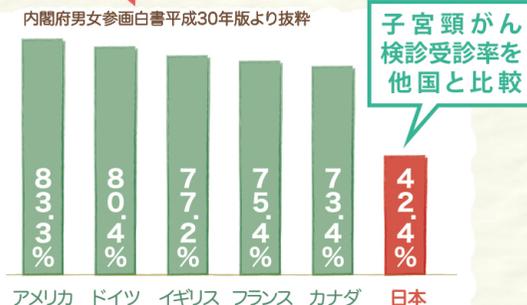
## 子宮頸がんをふせぐためには、しっかり検診！

◆ 子宮頸がん検診を定期的に行うことで、前がん病変の段階で発見し、“がんになる前に”治療することが可能です。また仮にがんになっても初期であれば予後のよいがんです。(5年後に生存している率95.7%<sup>注1</sup>)**2年に1度**、きちんと**検診**を受けることがもっとも**重要**です。日本では子宮頸がん検診と衛生状況の改善によって、1970年代以降(**ワクチンなし**)で子宮頸がんによる死者を減らしてきました。

※注1. 地域がん登録によるがん生存率データ (1993年～2011年診断例)



**まだまだ低い日本の子宮頸がん検診率**  
日本の子宮頸がん検診受診率は約42% (2018年)。80%前後が多い欧米先進国に比べ半分程度です。

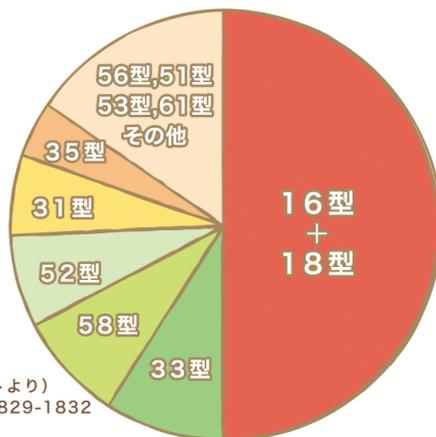


## “がんになる”前の発見と治療が重要

## ワクチンを受けたら、子宮頸がんにかからない？

◆ **200種類**ほどあるHPVの中で、子宮頸がんにつながる「発がん型HPV」は約**15種類**あります。そのうち定期接種のHPVワクチン(サーバリックス・ガーダシル)に含まれるのは**2種類**(16型・18型)だけです。ワクチンを受けた人も**定期的**に**検診**を受け続けなければならないのはこのためです。

**定期接種HPVワクチンに含まれるのは2種類**  
HPVにはいろんな型があるんだね。HPVワクチンを接種しても、すべてのHPV感染を防げるわけではないから注意しよう！



## HPVワクチンを打っても検診は受けないと！

check point

- ☑ 子宮頸がんは、ワクチンを打つだけでは防げない。
- ☑ 子宮頸がんは、検診を定期的に行うことで予防ができ、もしがんになっても、治療で治る可能性がある。
- ☑ 日本の子宮頸がん検診受診率は欧米先進国に比べて半分くらいだね。受診率をもっと上げて行かないと！



# HPVワクチンと副反応被害

## 他のワクチンと比べても高い副反応疑いの報告

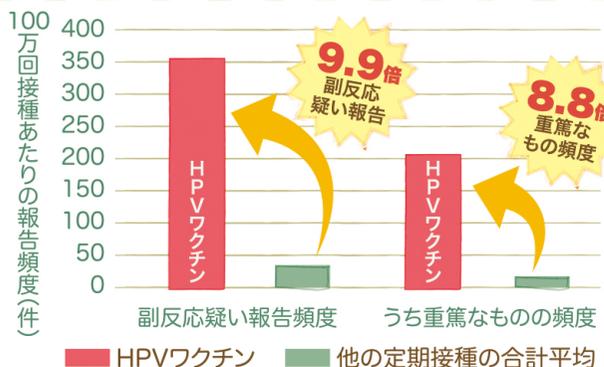
◆ 厚労省の副反応検討部会 2022年1月21日資料によると HPV ワクチンの副反応疑い報告は計 3396 件（約 1000 人に 1 人発生）うち重篤＝入院相当以上が 1965 件（約 1800 人に 1 人発生）にのぼっています。

これまでに 345 万人が接種して…

副反応疑い報告 3396 人  
(約 1000 人に 1 人)

うち重篤 1965 人  
(約 1800 人に 1 人)

入院相当以上の深刻で重い症状



2022年1月21日第75回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会資料より

◆ HPV ワクチン副反応疑い報告の頻度は、ほかの定期接種（12 種類）の平均値の 9.9 倍、うち重篤なもの頻度も 8.8 倍です。HPV ワクチンは他のワクチンと比較して際立って副反応疑い頻度の高いワクチンなのです。

## 複合的な副反応被害と、確立しない治療法

◆ 副反応の症状は多様で、ひどい頭痛、全身の疼痛、脱力、不随意運動、歩行障害、睡眠障害、月経障害、記憶障害、学習障害など、多様な症状が一人の患者に重層的にあらわれるものです。この重篤な副反応の治療法は確立していません。

◎ 一人にいろいろな症状が重なって出ているよ

症状が複雑で理解されにくい

治療法がみつからない



◆ 国が全国に設けた協力医療機関には、「このワクチンに副反応なんてない」と、被害者を詐病扱いするような医師もあり、十分に機能していません。被害者を真摯に診てくれる数少ない病院を頼って1000キロ以上移動せざるを得ない被害者もたくさんいます。

◎ 「協力」医療機関でも治療してもらえない。だれを頼ればいいんだろう??

## 世界的な副反応被害 - 日本でも被害者たちが提訴 -

◆ 国と製薬会社に、真の被害救済と治療法の確立・再発防止などを求める訴訟は、全国4地裁で原告約130人(2022年2月現在)が2016年からたたかい続けています。

2016年より全国で訴訟がはじまり、今も多くの被害女性たちが治療法も見つからない中、たたかい続けています



◆ 同じような副反応被害は世界中で起きています。

英国、アイルランド、スペイン、コロンビアなどに被害者の会があり、治療法の確立などを求める運動を続けています。そこでも、医療者から「心の問題」などと決めつけられ傷ついた人がいます。接種率は英国やオーストラリアのように高い国もありますが、米国55%、ドイツ31%、フランス27%(2017~2018年)など必ずしも高い国ばかりではありません。

積極的勧奨が再開により、接種者が増え、同じ苦しみを味わう被害者が増えてしまうことが懸念されます。

**接種をする前に、メリットデメリットを慎重に考えてください**



打つ前に考えよう!

子宮頸がんワクチンを接種した結果中学高校で発病し、将来の夢を諦めざるを得なくなった子がたくさんいます。そのリスクをどう考えますか？

- HPVワクチンは他の定期接種に比べ、**重篤な副反応疑いの報告が多い。**
- 重篤な副反応被害者は、**学校に行けず、仕事もできず、車椅子になったり寝たきりになったり、日常生活が普通に送れなくなる人もいる。**
- 治療法も確立していない。**
- HPVワクチンが本当にがんを減らし、**がんによる死者を予防できるかまだわからない。**

# 接種再開に抗議する被害者の声

2021年11月12日 積極的勧奨の再開を容認した厚生省副反応検討部会に抗議した声からの抜粋



HPVワクチン被害訴訟原告団副代表 望月瑠菜さん（山梨県在住）



ご本人の映像はこちらからご視聴いただけます▶

<https://www.youtube.com/watch?v=Aj3D5niXfVg>

今日山梨から電車で東京に向かっている途中に、たまたま保存されていた高校卒業時に書いた両親への手紙の下書きが出てきました。4年前の私が書いた手紙です。

高校1年生の夏に歩けなくなってしまい、高校3年間障害を抱えながら過ごし、普通とはかけはなれた高校生活を送った私ですが、その手紙には、「治療法がきつと見つかる」と信じてると、とても前向きに書いてありました。当時の私は治療法がすぐでてくると心から信じていたのです。

ですが、実際のところ4年前の症状と変わらない症状で今も生活しています。たった4年じゃ何も変わらないよと思う方もいるかもしれませんが、今すぐにでも痛みのない生活、障害のない生活を望んでいる私にとっては、4年はとても長い月日です。

当時の私は治療法を早く見つけてほしいという一心で、勉強会を開き被害を知ってもらったり、メディアを通して全国にこの被害を広めたり、高校生なりにがんばっていました。直接議員さんにお話したり、時には厚生労働大臣と直接お話ししたりしました。厚生労働大臣とお話する機会をはじめいただき、被害者に寄り添って行きたいという言葉が厚生労働大臣の口から直接聞いたときには、「やっと助けてもらえる」と心からうれしく思いました。ですが、それから寄り添ってもらっているなど感じたことは一度もありません。助かったなと思ったことも一度もありません。

そしてまた本日、HPVワクチンの積極的勧奨再開が決定したということを知り、あらためて私たち被害者のことを心から見ていないなど実感しました。私はこの被害について考えるのは、あまり好きではありません。今までのことを考えると、悲しくて涙が止まらないからです。これ以上、思い出すのを悲しむ過去の時間を長くさせないでください。



HPVワクチン被害九州訴訟原告 梅本美有さん（福岡県在住）



ご本人の映像はこちらからご視聴いただけます▶

<https://www.youtube.com/watch?v=WSBhAiSMelQ&t=7s>

私は中学生から高校1年にかけてHPVワクチンを3回接種しました。3回目接種後から、激しい体じゅうの痛みや、倒れ込みそうな重たい倦怠感、脱力など、何重もの症状に苦しみ、9年経った今でも、日常生活を普通に送っていません。1年の内、半分以上はベッドの上です。ワクチンのせいで、私の人生はむちゃくちゃに壊されました。あったはずの沢山の選択肢は奪われました。

今日の検討部会を聞きましたが、余りのひどい内容に、怒りと悔しさで涙が出ました。聞きたくなくて、途中で耳をふさぎました。出席者は、だれひとりとして、私たちの存在を重く受け止めておらず、再開ありきの話だけでした。今いるたくさんの被害者に対し、全く支援をしていないのに、治療法がないのに、積極的勧奨を再開すれば、被害者が増えることは、火を見るより明らかです。

積極的勧奨という決断は、多くの若い子達の人生を壊すということが分かっているのかと、問いたいです。もうこれ以上、自分たちにも、今の若い子達にも、苦しい思いを、させないで下さい。地獄のような苦しみを味わうのは、もうこりごりです。私たちの、今なお続いている被害に、目をそらさず、向き合ってください。

※HPV ワクチン副反応被害者は、決して“反ワクチン”ではありません。

むしろ皆、国や製薬会社の言葉を信じて、

ワクチンを決められたとおりに接種してきた人たちなのです。

**「私たちが反ワクチンであれば、  
こんなワクチンを娘に打たせなかったのに」**

それが被害者の母の言葉です。

ワクチンには、長い使用実績をもとに有効性・安全性に

定評のあるものもあれば、そうしたデータが不足しているものもあるのです。

- ▼ マスメディアは、ほとんど副反応被害を報じなくなり ▼
- ▼ 副反応被害のことを知らない親御さんも増えています。 ▼
- ▼ そこでやむを得ず被害者の女性たちがSNSで情報発信を始めています ▼

被害女性たちの  
声をフォロワー



**毎週金曜更新中!!**

はーとくん@HPVV  
[https://twitter.com/kha\\_hpvv](https://twitter.com/kha_hpvv)

HPVワクチン副反応被害にあった当事者たちが、イラストや動画でわかりやすく最新情報や被害の実態を発信中です。ぜひのぞいてみてください。

【発行者】HPVワクチン東京訴訟支援ネットワーク  
<https://hvp-yakugai-shien.net/>  
【発行日】2022年3月18日 資料用第1版発行



この資料はこちらから  
ダウンロードできます